

TOWN

フィナーレは恒例の全員合奏。100人以上がステージに上がり、松原実行委員長の指揮で演奏した



プロを迎え 楽器もふんだんに



大ホールのロビーには約50本のトロンボーンが並んだ

展示楽器を試奏して音を確かめる参加者

100人以上が迫力の大合奏
トロンボーン
勢ぞろい

第3回フェスティバルで大きな輪
延岡

スペシャルゲスト小田桐寛之さんの独奏。アーノは浜月春佳さん

「第三回富崎トロンボーンフェスティバルinのべおか」が三日、延岡総合文化センターで開催された。地元のトロンボーン愛好者でつくる実行委員会(松原正幸実行委員長)が一昨年から、地方の音楽環境向上を目的に毎年開いている。県内外から大勢の愛好者が訪れ、トロンボーンざんまいの一日至を楽しんだ。

スペシャルゲストに小田桐寛之さん(東京都交響楽団首席奏者)と大江健司さん(大阪市音楽団奏者)を迎えた。また、前回までゲストとして参加していた宮崎市出身の郡恭一郎さん(シエナ・ウインドオーケストラ奏者)と村田秀文さん(ロイヤルチャーチバーオーケストラ首席奏者)がレ

ギュラー講師として全面的に協力したこととで第一線で活躍中のプロ奏者四人から技術を学べる豪華なイベントとなった。

午前中は小ホールでコンペティション、午後は大ホールでクリニックスコンサートがあった。大ホールのロビーでは、主要メーカーのトロンボーン約五千本を展示。



プロ演奏家4人によるカルテット。左から郡恭一郎さん、村田秀文さん、大江健司さん、川野智博さん(フランス留学中)

普段はカタログでしか見ることのできない樂器も試奏できるとあつた人気を集めた。日南学園高校吹奏楽部二年河野夕貴さんと奈須妃美子さんはたくさんトロンボーンがあるのうれしい」と話し、試し吹きを楽しんだ。コンサートはアマチュア団体の部、「コンペティションで選ばれた都城市高崎中学校をはじめ、実行委員たちのアンサンブルグループ『Baragumi』など六団体。プロ演奏家の部には、ゲスト、講師、東京芸術大カルテツらが出演した。演奏スタイルは独奏から十二重奏まで、曲目はクラシック、ジャズなど多岐にわたる。演奏家たちは、どの曲でも、自分がやっていることを感じます。このスタイルで続けていきたい」と話した。

松原実行委員長は、「プロ奏者の皆さんのおかげで、これだけのことができ、中学生や高校生にトロンボーンの本当の魅力を知つてもうねたと思います」と感謝。回を重ねると、多くの県内出身の奏者や音大生と出会うことができ、プロフェッショナルを中心に徐々に輪が広がっていることを感激します。このスタイルで続けていきたい」と話した。

「太い音はいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつもウィーンはいつも

実行委員会 Baragumi のアンサンブル